



●本宿景観形成支援業務

本宿地区の旧東海道沿いは、2019年度にまちづくり協議会の設立、2020年度に景観形成重点地区の指定を目指しています。この事業では景観まちづくりの機運醸成を目的に、沿道に住む地域住民および周辺住民を対象としたまちの将来像を検討するワークショップの企画運営を行いました。



●景観まちづくり推進事業（自主事業）

岡崎市の景観整備機構として、岡崎の景観まちづくりの啓発を行う事業。岡崎市制100周年記念事業「岡崎百景」の推薦人有志による「岡崎百景の会」の設立および運営支援を行い、岡崎市市民活動団体に登録が承認されました。また、景観整備機構連絡協議会において、岡崎市の景観まちづくりの促進を図る事業提案を行い、本宿景観形成支援業務の受託につながりました。

●2020年度の展望と目標

今、日本全体では人口減少時代に突入しています。岡崎市では、生産人口（15歳以上65歳未満）がすでに9年前から減少に転じ、高齢者（65歳以上）の割合は年々増え続け、少子高齢化が深刻になってきています。高齢化や人口減少は額田地域の山間部や東部地域のみならず、中心部でも顕著です。また、新型コロナウイルスの影響により、社会経済活動の変化が余儀なくされており、地域社会への大小さまざまな影響も予見されます。

地域における防災・防犯、高齢者の生活支援、子どもの安全や見守り活動をはじめ、多様化する社会的ニーズに応えるためには、新たな担い手の発掘や市民・企業・行政との連携・協働を進めていく中で地域の活力を高めることがますます求められてくると考えています。そのために、まちづくりの中間支援者として、2020年度も引き続き、3つの主要テーマ（「地域の活力を高める」「地域資源を活かす」「地域の課題解決を支援する」）を軸に事業を展開していきます。

3つの目標

- 1 **市民協働まちづくり**を推進するための拠点施設の運営体制の見直しと強化
- 2 **地域の担い手**不足など喫緊する**地域課題**の支援
- 3 **公民連携**による**公共空間**の整備・利活用の促進

「ご挨拶」



4月から事務局長を拝命しました大久保貴子です。りたの目的は市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進することです。

仏語では、「利他」とは「自分を犠牲にして他人に利益を与えること。他人の幸福を願うこと。」とされています。私は今の時代、社会の幸福を目指し事業を推進するためには、職員一人一人が心身ともに健康であり志を持っていることが大切であると思っています。りたが地域の課題に向き合い、中間支援組織としての役割を果たすためにも、働き方改革を推進し、職員とともに心を一つにして取り組んで参ります。



特集

2019年度のりた

りたは、市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進することを目的に掲げています。その目的を実現するため、市民自治の観点から地域自治と多様な市民活動を支援し、地域社会での連携・協働の推進に積極的な役割を果たすことや、社会の幸福をめざし市民・企業・行政が連携・協働のもとにそれぞれの役割と責任を担う「新しい公共」も理念を社会に浸透させ、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めていくことを使命としています。

今年度も3つの主要テーマ「地域と担い手をつなぐ（市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、地域活動へのボランティアマッチングを推進）」「地域の課題解決を支援する（少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援などの地域課題に対して、既存の担い手と新たな担い手をマッチングして課題解決を支援）」「地域資源を活用する（河川、公園、道路などの公共空間の豊かな使われ方を見出し、それらを具現化する活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献）」に基づき、事業を行いました。

●数字で見る「りた」2019

決算額(経常費用)
2億64万498円

大規模なまちづくり事業が一段落。2019年度は、地域包括支援センターへの支援をはじめ、より地域に密着した事業に注力しました。一方で、市外のまちづくり事業にも着手した1年でした。

従業員数
61人
(常勤職員16人・パート45人)

このほかにアルバイト、プロジェクトスタッフもいます。(2019年度3月末現在)

交流センター年間利用者数合計
約41万人

1年間の地域交流センターの利用人数を5館合計すると岡崎市の人口を上回る数になります。

ボランティア役務提供額(926円/h換算)

485万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。2019年度も非常に多くのボランティアに支えられました。(延べ2,824名5,242.5時間)

「まちびとバンク」ボランティア
マッチング人数/募集依頼件数

2,977人/83件

地域交流センターと市民活動センターで1年間に受け付けた「まちびとバンク」のボランティア募集依頼件数とマッチング数です。

「りた」が掲げる“3つの主要テーマ”に対する成果

地域と担い手をつなぐ

市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチングを推進。また、日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、地域の課題解決や地域資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行いました。

【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンク、地域活動交流会、まち育てスクールほか

地域の課題解決を支援する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援、不登校・ひきこもり支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手と連携。社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。

【該当事業】地域包括ケア支援事業、公園利活用ニーズ調査、NPOコラボひろば(おかぷら)、市民活動支援ほか

地域資源を活用する

河川、公園、道路などの公共空間、それらの場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、それらを具現化し、持続させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献しました。

【該当事業】乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業、かわまちづくり活用実行委員会運営支援事業、籠田公園運営体制検討業務ほか



●乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業

乙川リバーフロント地区内にある豊富な公共空間を活用して、公民連携プロジェクトを実施することにより、QURUWA(東岡崎駅・桜城橋・籠田公園・りぶら・岡崎公園を結ぶ主要回遊動線)での人の回遊を実現させ、まちの活性化(暮らしの質向上・エリアの価値向上)を目指す事業。今年度は3つの事業を実施。①岡崎図書館交流プラザりぶらの敷地内で社会実験(QURUWA菜園 in りぶら)を行い、参加型のプランター菜園の運営を通して「りぶらからの人のしみ出し」「市民協働の促進および市民活動の活性化」に一定の効果があることが分かりました。②公民連携まちづくりに対する意識啓発のシンポジウム(全3回)の開催。QURUWAのまちづくりに関心を寄せている市民・事業者に対して参画方法を周知し、機運を高めました。③中央緑道周辺地区における地域経営課題の抽出のための住民アンケートを企画・実施し、回収率90%を達成しました。

●乙川リバーフロント地区まちづくり情報発信業務

乙川リバーフロント地区のまちづくりの周知や参画を促すための情報発信を行う事業。今年度はQURUWA戦略における3拠点(りぶら、東岡崎駅、乙川堤内テラス)に「QURUWAボード」を設置し、QURUWA戦略のまちづくりに関係する事業やエリア内で開催されるイベントの掲示やチラシの配架を行いました。また、WEBサイト(<https://quruwa.jp/>)を新規で立ち上げ、ボードと連動したイベント情報の発信を行いました。



●岡崎カメラがっこう運営支援業務

岡崎市のシティプロモーションの一環で、生活者の目線で岡崎の魅力を発信するチームづくりを目指す「岡崎カメラがっこう」。今年度はまち歩きや取材を通して、見過ごしていた岡崎の魅力を発信する「ローカルフォトツアー」と写真や取材のスキルを学ぶ「ステップアップ講座」を開催。年度末には作品発表会とトークライブを行いました。



●おとがワ！ンダーランド(おとがワ！活用実行委員会事務局運営業務)

国が推進する河川を活用したまちづくり(通称「かわまちづくり」)を行う事業。今年度は31事業者・団体により60のプログラムを計91日間実施しました。過去4年間の取り組みを経て、プログラムの認知や魅力向上が進み、実施プログラムの事業収入12,357,500円(前年度比144%)、総来場者数21,431人(前年度比302%)と実績を伸ばしました。また、新規の自主事業として、まちなかキャンプ場の運営(199組584名参加)、乙川の価値を啓発するイベント(「川びらき」他)の開催を通じ、川のある暮らしの豊かさを体感できる機会を提供しました。

また、これまで実施プログラムの告知が主であったウェブサイトを更新。イベントの有無に関わらず、日常の乙川の魅力を発信しました。
<https://otogawonderland.jp/>



これらの取り組みは、国土交通大臣表彰「手作り郷土賞グランプリ」、ソノパワード2019「プロジェクトデザイン部門賞」を受賞しました。

まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2019年度の事業(抜粋)



●まち育てインターン受入事業

自治体から派遣された職員を対象にしたインターン受入事業。今年は愛知県職員(2年目)を受け入れ、岡崎市の地域交流センターで開催する各事業に参加し、市民活動のまちづくりの現場を体感できる場を整えました。



●地域包括ケアシステム支援業務

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を目指す拠点施設である地域包括支援センター。そのセンター職員を対象とした会議ファシリテーション研修を2学区(梅園、岩津)、広報の支援をスクエア包括(羽根、城南)とふくまど(額田)に対して行いました。また、六ツ美4学区の医療関係者と地域住民のネットワーク形成を目的とした「むつみまるごと交流会」、4学区(連尺他)が参加する学習交流企画「アイデア出し協議体」の企画や広報に対して助言を行いました。



●公園利活用ニーズ調査

岡崎市が進める公園愛護会組織「公園愛護運営会」の設立支援を行う事業。今年度は5つの地区を対象に愛護運営会の設立可能性を検討しました。その中で実際に立ち上がった棚田公園愛護運営会は、地縁組織(町内会、子ども会、老人会)から有志を募るという新しい設立方式を実現することができました。



●松本町包括ケア支援業務(自主事業)

松本町において、町内会、民生委員、老人会、地域包括支援センターおよび事業者と連携し、高齢者支援の仕組みづくりを支援する事業。今年度は一時中断をしていた高齢者向けの会員制で見守りをする弁当屋が復活。松本町内の飲食店と持続可能な仕組みづくりを検討しました。



●籠田公園運営体制検討業務

2019年7月に供用を開始した籠田公園の利活用の促進や管理運営の体制を検討する事業。今年度は3つの事業①モニタリング調査(6回)、先行事例調査(新とよパーク等)、籠田公園準備会(仮称)の開催、②籠田公園活用パンフレットの作成(2000部)、③籠田公園の管理運営の検討・役割の整理を実施しました。

北部地域交流センター・なごみん



2019年度の事業(抜粋)



●なごみんフェスタ

市民と地域団体の交流を図るイベント。参画団体とともに、ステージ発表のほか、俳句や絵手紙などの展示、マジック、着付けなどの体験、食品や小物の販売等を行いました。



●なごみん横丁

子どもたちが自ら考えまちをつくるイベント。子どもの自主性や創造性を育むと同時に、社会の仕組みを知ること、まちへの興味を高める機会となりました。



●なごみんカレッジ

岡崎聾学校の生徒や市民活動団体を講師に迎え、手話の体験会やミニ門松づくりの講座を開催しました。団体の活動を市民に発信する機会を提供しました。



●地域活動サミットin北部

社会貢献に意欲的な団体が集まって活動をPRすることで、町内会や慰問受入施設とのマッチングをする企画。団体の活動を地域の方に知ってもらう機会となりました。



●「大門の歴史がスゴイ」
～三河国の中心地、天下取りの道～
大門地区の歴史散策。足利尊氏の石宝塔(墓)がある「八剣神社」をはじめ、大円寺、三鹿の渡し跡などを巡り、地元住民が歴史的な魅力を発見できる機会を提供しました。



●ふるさとを語りつぐ
～岩津の昔と今、そして未来へ～
市民活動団体の情報交換や学びの場。『岩津風土記』や『岩津八景』の著者、兵藤進一氏による、岩津の地域づくりについての講演のほか、参加団体とともに、意見交換をしました。

南部地域交流センター・よりなん



2019年度の事業(抜粋)



●よりなん感謝祭

活動団体の日頃の成果を発表するとともに、地域との交流を深めるイベントを開催。参加団体やボランティアと協力して、ステージ発表、活動体験、作品展示などを実施しました。



●わくわく体験フェスタ

地域の世代間交流を目的としたイベント。体操、書道、楽器演奏、ピース作品の制作などを通じて、幅広い世代が交流できる機会を創出しました。



●生きがいがづくり促進事業

シニア世代の方々に生きがいとなるものを発見してもらうための体験講座。全20講座が実施され、カラオケや税理士による老後のお金に関する講座などが好評でした。



●羽根学区の町と道
～岡崎駅周辺の鉄道と道筋を巡る～
岡崎市文化財保護審議会委員の奥田敏春先生をガイドに迎えたまち歩き。羽根稲荷神社や第二尋常中学校講堂などを巡り、歴史的な魅力を発見できる機会を提供しました。



●生きがいがづくり交流会

生きがいがづくり促進事業の講師、地域の老人クラブ、学区福祉委員の代表に参加いただき、高齢者の生きがいがづくりについて事例発表や意見交換をしました。



●防災講習会

防災関連団体(3団体)と協働し、“防災について自主的に学べる機会”を創出。参加者の防災に対する知識や意識を高めるとともに地域防災への意識向上につなげました。

西部地域交流センター・やはぎかん



2019年度の事業(抜粋)



●親子であそぼう！子どもの国
子どもの創造性を育むことと、世代間交流を目的とした事業。クラフトや調理などの体験を通した学びの場を、学校や地域団体、市民活動団体と連携して提供しました。



●おやこのための「おいしい非常食を食べよう」
子育て世代の防災意識向上を目的とした講座。非常食の試食はもちろん、市の防災課とコープあいから職員を招き、災害用語や非常食について講演会を実施しました。



●ママ達のつなげる防災講座
市内で防災啓発に取り組む団体(守ろう子どもと赤ちゃん)と協働して開催。熊本市から「歌うママ防災士」の柳原氏を招き、子育て世代をターゲットにした防災講座を開催しました。



●花のとう協賛イベント
地域の伝統行事「花のとう」に実行委員として参画。雨天時の対応や助成金の取得など、運営面のアドバイスをしました。また、ステージ発表をする団体の派遣も行いました。



●防災さんぽ
～ひなん所までの道を歩こう～
矢作地域の災害特性を学ぶ講座。やはぎかんから矢作東小学校までの避難経路を地元住民と歩き、地震や風水害時の安全な避難経路の選び方について学んでもらいました。



●やはぎかん12周年春まつり
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。※ただし、準備期間中に運営委員会が作成した約30団体のPRチラシをまとめて館内に配架することで、市民活動の啓発につなげました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2019年度の事業(抜粋)



●むらさきかんまつり2019
～東部のいいとこ！見つけまつり～
東部地域の市民と活動団体(49団体)との交流イベント。舞台発表や物販・体験ブースに加え、講演会や展示コーナーなどを設けました。



●むらさき麦まつり
藤川宿とむらさき麦のPRのため、藤川まちづくり協議会と道の駅が連携。今年度新たに企画した「御朱印帳の制作」が大変好評で、藤川の寺社に40名もの記帳希望者が訪れるなど、地元の活性化につながりました。



●東部の活躍人！交流会
東部地域で活動している団体の情報・意見交換会。今回は4名の講師を招き「持続可能な地域を目指す、私たちの挑戦！」というタイトルでパネルディスカッションを行い、東部地域外含め52名が参加しました。



●秋の山中城址を歩く
県下最大級の山城である山中城址や山中八幡宮など10kmのコースを山中城址保存会などの解説で巡り、東部の魅力を再発見してもらう場を提供しました。

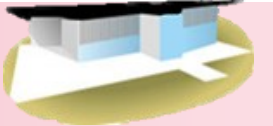


●むらさき麦の料理教室&食育教室
藤川まちづくり協議会、愛知学泉短期大学と連携。「むらさき麦」を使った料理教室や、栄養について学べる子供向けの食育教室を開催しました。



●東部の“いいところ”行っとこ！展
情報誌で取り上げた記事を中心に、岡崎市東部地域の魅力ある史跡や名所を紹介する展示。今年は新たに東部の寺社を紹介するコーナーも設けました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2019年度の事業(抜粋)



●ゆきファミリーパーク
～10/6おやこのきねん日～
子育て支援団体(15団体)との協働企画。手遊び体験のステージ発表や、育児雑貨の販売などが行われ、各団体の活動内容を市民に知ってもらう機会となりました。



●5周年2020(にーまるにーまる)ゆきフェスタ
公益活動を行う団体の成果発表・交流の場。参加計37団体とともに、歌やダンスなどのステージ発表や、作品・活動紹介の展示、物販などを行い、市民と交流する場を創り出しました。



●お田植えみんなでアート
「六ツ美悠紀斎田お田植えまつり」の協賛イベント。岡崎のまちをアートでより良くする活動を行っている団体と市民が「令和にかけける虹の橋」をテーマにガラス壁面を使った作品を協働制作する場を提供しました。



●悠紀の里 岡崎まち育てスクール
六ツ美南部学区で実施されてきた「かるたウォーキング」の一部リニューアルを支援。また、地域の魅力を発信・共有する事業の立ち上げを、住民参加ワークショップで検討しました。

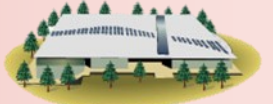


●みんなのむつみ展
六ツ美をテーマにした写真、絵画、造形作品などを市民から募集し、地域の魅力を見つめ直すことを目的とした展示会。70点もの作品が集まり、多くの来館者に観覧いただきました。



●時代に合った子育て支援を考える～ワイワイおしゃべり、みんなでアップデート～
子育て支援に携わる方を対象に講座とワークショップを実施。今の社会状況や、ママ・パパの思いに沿った支援の在り方を学び、話し合いました。

りぶら市民活動センター



2019年度の事業(抜粋)



●まちびとバンク
公益活動促進のため、ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている団体に対して612人33団体のマッチングを行いました。(6センター全体では2375人)



●もののものバンク
市民より提供された不用品と、それらを必要としている市民活動団体へ届けるシステムの運用。40件のマッチングが成立し、団体が抱えるモノ不足解消に努めました。



●伝わる情報って何だろう？
広報(Public Relation)の本質を学ぶ1Day講座
広報に課題を感じている個人・団体の方を対象にした講座。PRプランナーである米山哲司氏を講師に広報の本質や情報発信のコツなどについての学びの場を提供しました。



●りぶらスタディーツアーズ2019
りぶらと周辺のまち歩きを通じ、まちへの愛着増進や市民活動の促進を目指す企画。りぶらの「本の管理」や「仕分け方法」などの図書館見学ツアーや「NPO法人コネクトスポット」と連携してワークショップを実施しました。



●岡崎NPOコラボひろば(愛称：おかぶら)
岡崎市で公益活動をしている個人、団体、社会貢献に興味のある企業を対象とした情報交換会を年2回開催しました。



●西三河初！社会課題に向き合う活動団体のための「NPO資金調達まるわかりセミナー」
NPOや市民活動団体の支援を目的とした講座。助成団体と採択団体の各視点での事例発表や特徴などを学ぶ場を提供しました。